



JEF常任理事3年目の夏、団体戦の種目構成や競技方法について検討・提案という任務を仰せつかりました。全日本教職員バドミントン選手権大会における団体戦は、第3回大会より一般男子・女子(複・単・単)の形式で実施され、第6回大会より男子成壮年(30歳以上・40歳以上・50歳以上)、第54回大会より女子成壮年が実施されています。近年、一般女子の参加チーム数の減少や成壮年参加者の高齢化に伴い団体戦の種目構成や競技方法の変更に対する意見が出されてきたものの、具体化には至っておりませんでした。

そこで、まずは各都道府県連盟および大会参加者からの意見徴収としてアンケート調査を実施することになりました。仕事柄アンケート調査を行ったり、学生の卒業論文の際に助言をしたりすることも少なくありません。学術的調査ではないとわかりつつも表現が固くなりがちな私のたたき台を、最若手理事の伊木文枝さんが大胆に修正してくれたおかげで、非常に回答しやすいものになりました。同県のチームメイトとして大会に参加してから20年近く経過しましたが、コート上で頼れる人物はやはりコート外でも頼れるもので、シンプルなアンケートにたくさんのご協力が得られました。アンケートは配布・回収方法もあり回収率は1割強程度でしたが、多くの方が自由記述欄にたくさんのお話を書いており、会員のみならずの情熱を感じました。今回の最大のテーマである成壮年団体の上をいく団体種目については、選択肢の意見が分かれ、さらに自由記述には新たな意見も記載され、まとめる側としては本当に嬉しい悲鳴となりました。さらには、それぞれの地域の実情や地区での活動事例などの情報提供もあり、今後の活動への大きな励みになりました。ご協力頂いたみなさまに心より感謝申し上げます。

みなさまからの貴重な意見をもとに理事会にて議論を重ね、平成30年度総会において3つの提案が決定され、2019年度より実施することになりました。

### (1) 一般団体の種目構成を1複2単から2複1単に変更

一般団体の種目構成については、以前から特に一般女子において強い要望がありました。長年続いた正式種目の変更には特に慎重な議論を重ねましたが、日常的にシングルスをしている教員は決して多くなく、一部の選手にかかる負担が大きく個人戦への影響も考えられること、またシングルス中心の団体戦メンバーを揃えるのに苦勞しているという意見も少なくなかったことから、1複2単から2複1単に変更することにしました。多くのチーム、選手が参加することにより、団体戦の活性化を図りたいと考えています。

### (2) 団体フリー(ハイパーAGE)の新設

男子ダブルス、ペア合計100歳以上・110歳以上・120歳以上の3複の団体戦です。近年の高齢化対策として、成壮年団体の上をいく団体戦を新設し、年齢を重ねた先生方の参加、活躍の場を作ることが重要なテーマでした。しかし、ここ数年の大会参加・登録状況を見てみると、各都道府県にこうした年齢を重ねた先生方が数名はおられても6名揃えてチームを作るのは難しいように感じられました。一方、他の年代を見ても、人数の関係で団体戦に出られない若者がいたり、同じ年代の人がいないため大会参加が難しい方がいたり、様々な実態があるようでした。そこで、これらの状況を解決すべくペア合計〇歳という案として具体化しアンケートにて意見を伺ったところ、具体的な年齢区分への意見はあったもののペア合計〇歳という括りについては概ね同意が得られ、実際に実施している地区もあるという報告もありました。その後、具体的な年齢区分について聞き取り調査を重ね、ペア合計100歳・110歳・120歳とさせて頂きました。成壮年団体のやや上をいく方同士のペアであったり、かなり上をいく方と若者のペアがあったりと様々な工夫をし、参加参戦して頂ければと思います。高齢化対策のみならず、本連盟の目的である「バドミントンを通じて会員相互の親睦を図り、各種競技会を開催するほか、特に体育指導者間におけるバドミントンの普及に努め、相互に研鑽を深めて、もってわが国のバドミントン界の発展に貢献する」ことに繋がれば幸いです。

### (3) 個人戦女子55歳以上の単複の新設

今回のアンケートは団体種目についてでしたが、自由記述として個人戦女子55歳以上単複の要望が多く挙げられました。近年の状況を鑑みても55歳以上単複の新設が必要な時期に来ており、採用実施と致しました。これによって女子の参加が増加していけば、将来的には団体フリーへの女子の参加も考えられます。

『日本教職員バドミントン連盟(JEF)の歩み』によると、各地にあった「全国の教職員が一体となり日頃の研究や体験を持ち寄って研修の場と組織をつくろう」の声が集められJEFが生まれ、大会と全国指導者研修会の二大事業として始まったとされています。今回の団体種目変更・新設により大会がますます活性化し、ここが多くの先達との交流の場となり、研修会(講演会)と合わせ生きた研修の場となることを願い、私自身も長く続けていきたいと思っています。今後ともどうぞ宜しく願い致します。

巻頭言	目次
平成三十年度総会資料	
総会議事録	
平成二十九年度事業報告	
平成二十九年度決算	
平成三十年度事業計画	
平成三十年度支部	
連盟名簿	
新種目について	
第八回全日本教育系	
学生大会要項	
第五十七回大会資料	
今大会を顧みて	
レフェリー報告	
平成三十年度表彰者一覧	
総合順位	
成績表	
団体戦トーナメント表	
個人戦トーナメント表	
表紙の人	
派遣審判員一覧/閑話休題	